

目 次

はじめに——天動説か、それとも、地動説か

序 章 経済原論の課題と方法 Ⅰ ——何について、どのように考えるか

第1節 経済原論の課題 Ⅰ

- 1 経済および経済学とは何か Ⅰ
- 2 経済原論の課題 2
- 3 近代経済学とマルクス経済学 3

第2節 経済原論の方法 4

- 1 資本主義経済の運動法則を考える——弁証法—— 4
- 2 資本主義経済を重層的に理解する——下方向と上方向—— 6
- 3 資本主義経済の「標準的な姿」を組み立てる——分析と総合—— 8

第Ⅰ部 資本の発生

第1章 商 品——商品の価値は“タイパ”で決まる 12

第1節 価値とは何か 13

- 1 商品の二要因 13
- 2 価値の実体と大きさ 17

第2節 労働価値説以外の価値論について考える 20

- 1 効用価値説 20
- 2 希少性価値説 22
- 3 情報価値説 24

第3節 価値表現の方法 26

- 1 価値の大きさを表現するには？ 27

2	他の商品による価値表現	28
第4節	商品の物神的性格	33
1	資本主義経済と商品生産	34
2	商品の物神的性格	37
第2章	貨幣——なぜお金は“お金”なのか？	40
第1節	商品交換と貨幣の成立	42
1	貨幣の定義と課題の整理	42
2	商品の交換過程と全面的交換の行き詰まり	45
3	利己的利他心原理と貨幣の成立	52
4	貨幣の発展	55
第2節	貨幣の機能と商品流通	58
1	貨幣の機能	58
2	貨幣的現象を考えるための補足	61
第3章	資本——自由×自由＝(x)の不自由。x＝？	63
第1節	資本の一般的定式	65
1	商品流通の種類	66
2	資本の一般的定式の矛盾と解決策	68
第2節	労働力商品の性質	71
1	成立要件	71
2	労働力商品とは何か	73
第3節	資本の成立	79
1	労働力商品と資本の成立	79
2	様々な資本——講義後半の予告編として——	83

第Ⅱ部 資本主義経済の展開

第4章 資本主義的生産様式と生産力の発展……………86 ——資本主義を理解したければ“生産”に注目すべし

- 第1節 労働過程と労働の二重性 87
 - 1 労働過程 87
 - 2 労働の二重性 90
- 第2節 有用効果形成過程と価値形成過程 92
 - 1 有用効果形成過程 93
 - 2 価値形成過程 95
 - 3 剰余価値と商品の価値構成 99
- 第3節 資本主義的生産様式と生産力の発展 103
 - 1 資本主義的生産様式とは何か 103
 - 2 生産力と労働生産性 108
 - 3 資本主義的生産様式と技術革新 110

第5章 剰余価値と搾取……………116 ——「労働者をもっと搾取して儲けを増やそうぜ!!」

- 第1節 絶対的剰余価値生産と労働時間 118
 - 1 絶対的剰余価値生産とは何か 118
 - 2 労働時間の延長と絶対的剰余価値生産 120
- 第2節 相対的剰余価値生産と賃金 125
 - 1 相対的剰余価値生産とは何か 125
 - 2 賃金決定の仕組み 126
 - 3 賃金の引き下げと相対的剰余価値生産 130
- 第3節 特別剰余価値と技術革新 134
 - 1 特別剰余価値とは何か 135
 - 2 特別剰余価値をめぐる企業間の競争 139

第4節 剰余価値生産の進展と限界	142
1 剰余価値生産の「進展」を示すには？	142
2 剰余価値生産の進展と限界	147
第6章 資本蓄積と経済成長	152
——資本主義経済はゼロ成長に近付いていく	
第1節 資本の蓄積過程	153
1 資本の蓄積過程とは何か	153
2 資本蓄積の基本条件と関連する用語の整理	156
第2節 雇用の相対的削減と失業	158
1 就業者と失業者	158
2 資本蓄積における雇用の相対的削減	161
3 資本蓄積における失業率の上昇傾向	164
4 資本主義的蓄積の一般法則と労働者の包摂	167
第3節 社会的総資本の流通と実現条件	168
1 社会的総資本の流通	169
2 商品の実現条件	172
3 二大生産部門の蓄積軌道	177
第4節 資本蓄積と利潤率の傾向的低下	179
1 利潤率を規定する要因と変化の方向	179
2 上限低下説による「利潤率の傾向的低下法則」の証明	181

第Ⅲ部 資本主義経済の諸姿容

第7章 市場	188
——「需要と供給の関係で価格が決まる」と言っても意味がない	
第1節 市場の仕組み	189
1 三面的競争と市場の需給調節メカニズム	189
2 均衡価格の決定	194

第2節 均衡価格の重層性 198

- 1 平均利潤率を基準とした三面的競争 199
- 2 平均自己資本利潤率を基準とした三面的競争 203
- 3 均衡価格の重層性 208

第3節 商業資本 212

- 1 商業資本の機能 213
- 2 商業資本が成立する仕組み 215

第8章 金融——アベノミクスの「現実」とMMTの「夢」……………220

第1節 金融資本と利子率 221

- 1 金融資本の成立 221
- 2 利子率 223
- 3 利子による付加価値分配の不明確化 228

第2節 信用と信用貨幣 230

- 1 商業信用と手形流通 230
- 2 銀行信用と銀行券 233
- 3 不換銀行券の成立 239

第3節 貨幣をめぐる“現実”と“夢” 242

- 1 中央銀行は物価をコントロールできるのか？ 243
- 2 政府が貨幣を生み出す？ 248

第9章 景気循環——日本経済は“単純再生産の罠”に陥っている……………255

第1節 資本主義経済の「理想的平均」について考える 256

- 1 「理想的平均」における資本蓄積の特徴 256
- 2 「理想的平均」における2つの均衡について 259

第2節 景気循環の仕組み 266

- 1 理想的平均からの逸脱—好況の発生と反転要因の潜在的累積— 266
- 2 反転—恐慌の発生、それに続く、後退、不況、回復— 274

おわりに——これからの読書案内

索引